

ま え が き

最近におけるわが国製鋼技術の進歩発展は実に目覚ましいものがありますが、この陰には製鋼作業にとって不可欠であり、且つまた鋼塊の品質ならびに製造原価におよぼす影響の大きい鋼塊用鑄型および定盤の材質的向上もまた見逃がせないものがあります。

ここ数年来の鑄型および定盤の鋼塊屯当り消費量の低下は注目し、鋼塊原価の切下げに重要な役割を果たしておりますことはまことに喜ばしいことであり、このような成果は製造者と使用者との真剣な共同研究とたゆまざる努力の賜として深く敬意を表する次第であります。

鉄鋼技術共同研究会製鋼部会鑄型分科会は昭和23年8月に発足した日本鉄鋼協会研究会の一部門である鑄物部会鑄型研究会の後を継承し、運営面に若干の修正を加えて、昭和30年5月最も関係の近い製鋼部会に附随させたもので、製造者と使用者のより緊密な共同研究の場を提供し、合理的且つ能率的に研究成果を挙げるよう努めております。当初の分科会主査は芥川武博士にお願いし、懇切なる御指導を賜わったのでありますが、惜しくも病のため長逝されましたので、それ以後は日本鋼管入一氏、同社寺田二郎氏ならびに川崎製鉄岩村英郎氏に代々の主査をお願いして今日に至っております。

先に、鑄物部会鑄型研究会においては、昭和29年6月に戦後より昭和28年までに研究討議された結果を取りまとめ、¹「鋼塊用鑄型に関する研究」と題する報告書を発刊し、鑄型の材質、設計、使用方法等に関する技術的進歩の跡を示したものでありますが、これは各工場におけるその後の研究ならびに実際作業の指針として好個の参考資料となつたのであります。一方鉄鋼界においては相次ぐ技術的進歩と相まつて、更に能率面および品質面より鋼塊の大型化、キャップド鋼塊の採用等が問題点としてとりあげられ鑄型界においてもこれに対処すべく鑄型の材質設計面に一段の向上が要望される時期でもあり、今後の発展に資するべく製鋼部会鑄型分科会においても前回と同様その後の各社の研究および調査結果をとりまとめて発刊することと致しました。内容的にもかなり進歩が見受けられ詳細に亘るので関係者各位に裨益するところ多大なるものと信じます。なお今回の発刊に当つては、従来の当研究会報告書と趣を異にし、幸い、日本鉄鋼協会八幡製鉄渡辺記念資金よりの資金をあおぎ²「鉄と鋼」の増刊号として会員全員に広く配布して戴くこととなりました。これは当研究会の研究報告の今後のあり方の試金石ともなるべきもので、大方の御批判をあおぎたい所存であります。

当部会はこれまで御支援を賜わつた日本鉄鋼協会塩沢正一会長をはじめ、関係各役員諸氏ならびに長年に亘り当分科会の御指導を忝うした蜂谷前部会長に対し深甚なる感謝の意を表するとともに、発表を許可された各社ならびに委員、幹事諸氏に対し深く感謝致します。

最後に、本書の企画編集にさいしては寺田二郎前主査に、発刊にさいしては岩村英郎主査に多大の労を煩わし、且つまた本書の完成に絶大なる御協力を得た執筆者ならびに編集者の方々に対し、ここに厚く御礼申し上げる次第であります。

昭和35年2月

製鋼部会長 武 田 喜 三